

# 第3章 アンケート調査からみる総社市の現状

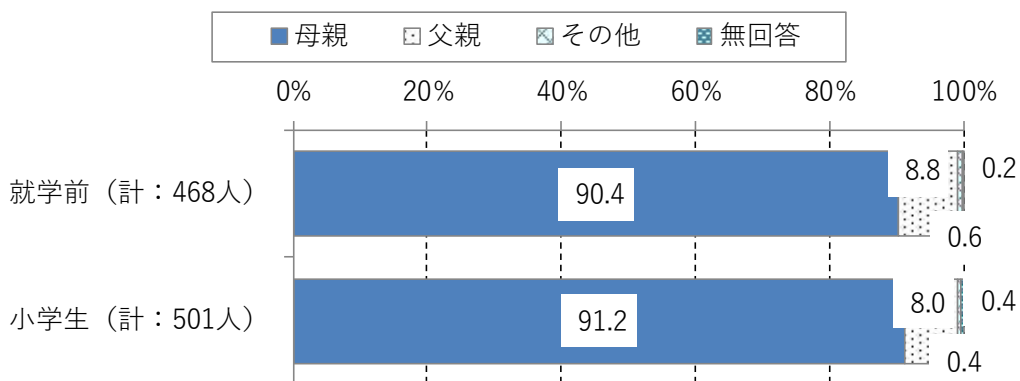
## 1. 家族の状況

本調査に回答した方の9割以上が母親です。また、父親と一緒に住んでいると回答した保護者は就学前児童で93.2%、小学生で87.8%となっています。子育てを主に行っているのは「父母ともに」と回答した保護者が就学前児童55.8%、小学生57.5%となっている一方、「母親」と回答した保護者は就学前児童42.1%、小学生38.5%、「父親」と回答した保護者は就学前児童0.2%、小学生1.0%となっています。

これらのことから分かるとおり、男女共同参画意識の拡がりに伴い、男性が子育てに参画しつつある状況がみられるものの、依然として、母親が子育てを担っている現状がみてとれます。

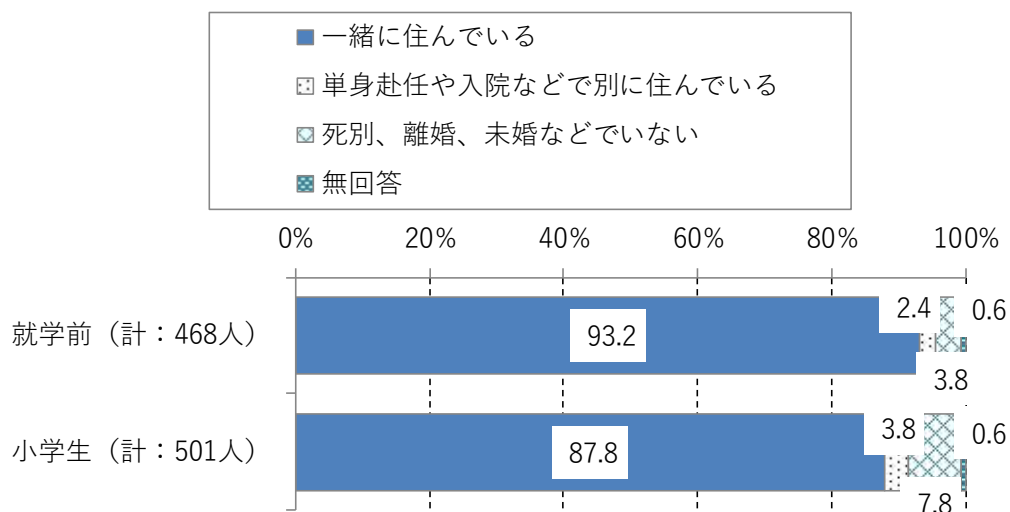
緊急時に子どもを見てもらえる人として、祖父母などの親族を挙げる人が多いものの、子どもを見てもらえる人がいない家庭も概ね1割存在しており、周囲に相談できる親族や友人がいない等の要因が重なることで、たちまち地域で孤立してしまうおそれがあることが分かります。

図表 17 本調査の回答者

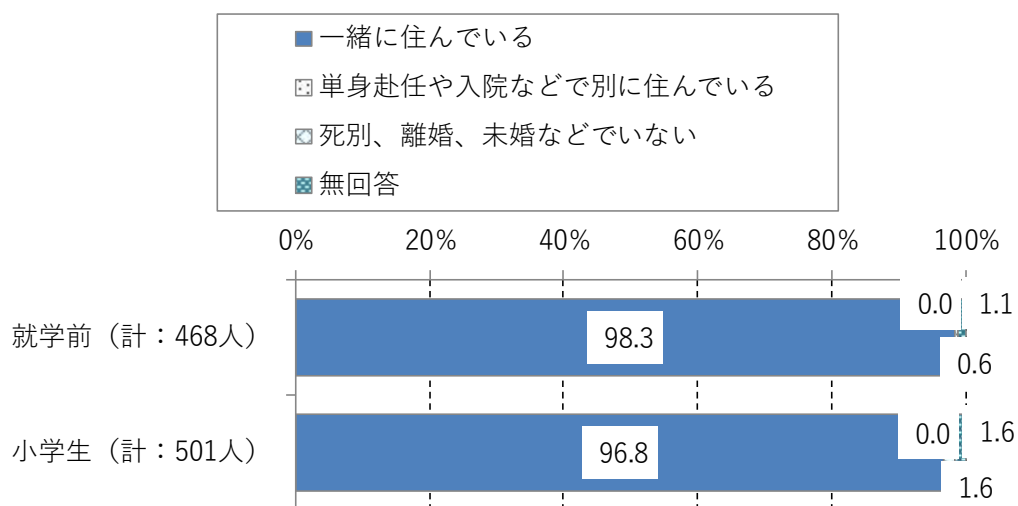


図表 18 配偶者の状況

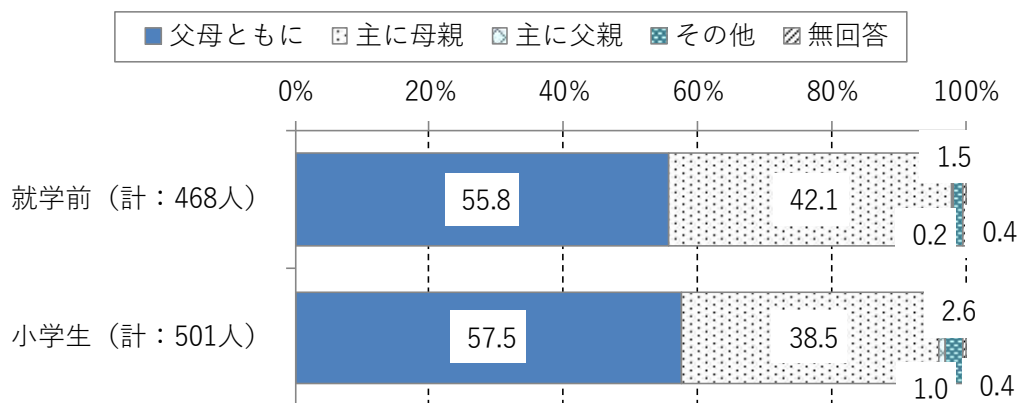
(父親)



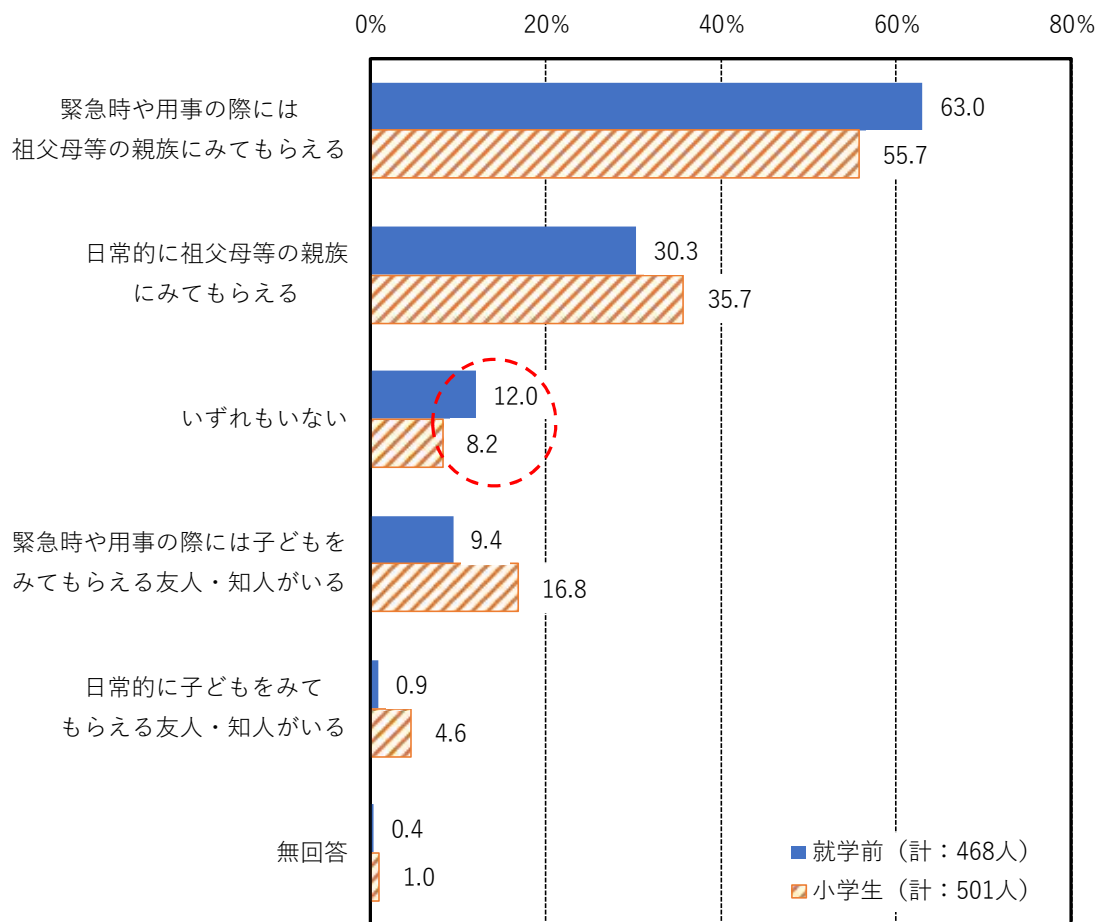
(母親)



図表 19 子育てを主に行っているお子さんからみた関係



図表 20 日頃、お子さんを見てもらえる親戚・友人の有無（複数回答）

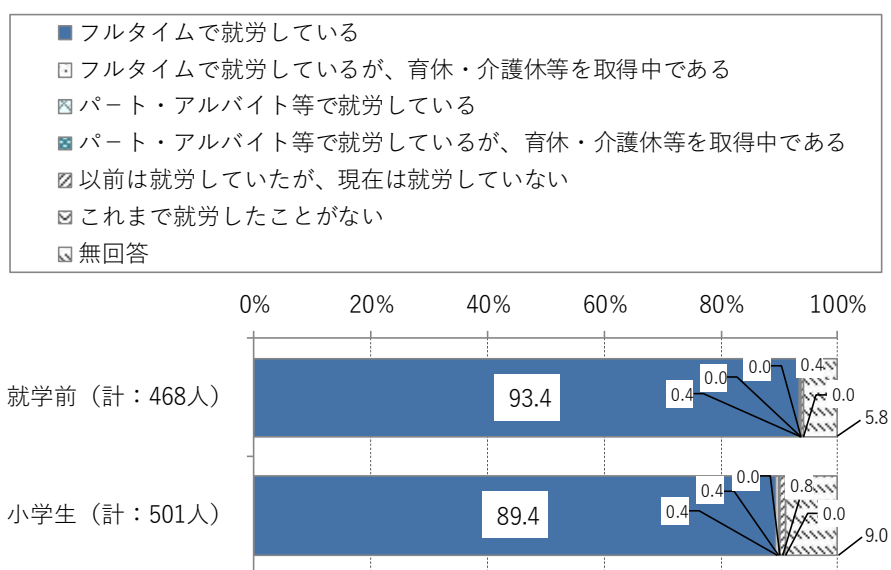


## 2. 保護者の就労状況

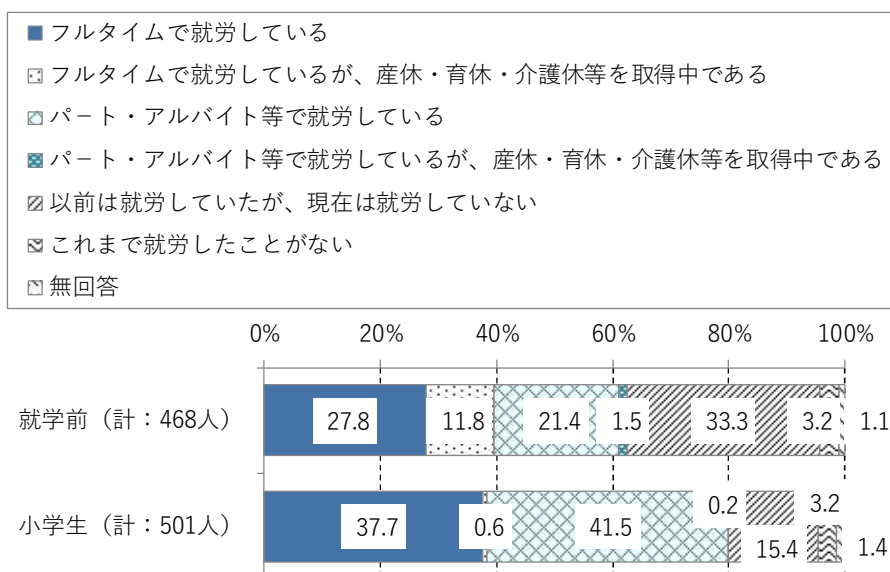
父親の約9割はフルタイム勤務となっています。

働いていない母親の就労意向を見ると、就学前児童の母親の26.9%、小学生の母親の38.7%が、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しており、希望する就労形態は就学前児童の母親の約7割、小学生の母親の約9割が「パート・アルバイト」と回答しています。

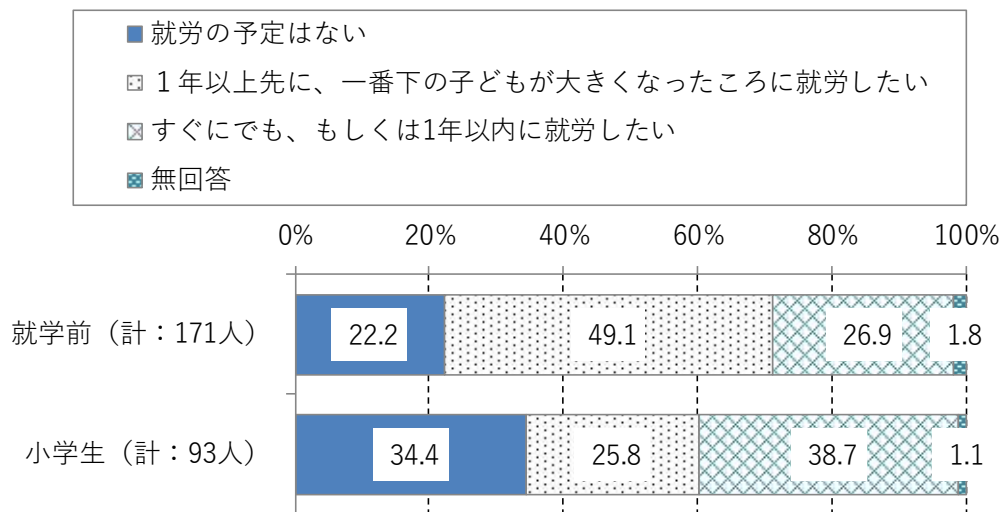
図表 21 父親の就労形態



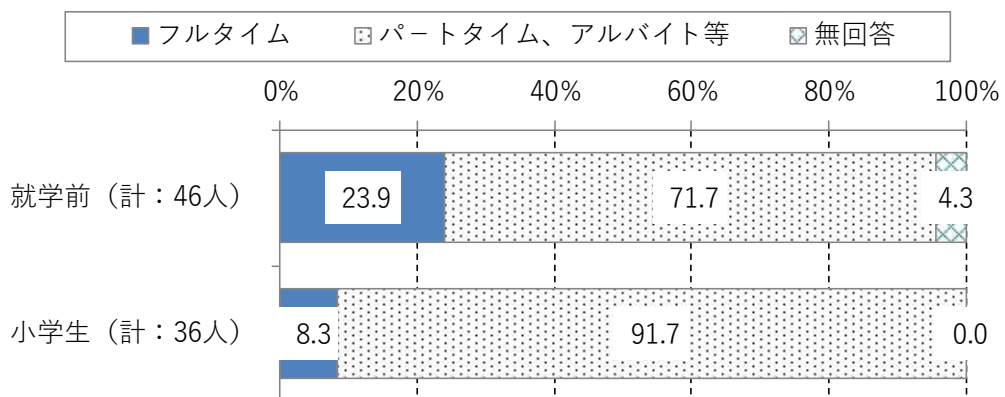
図表 22 母親の就労形態



図表 23 就労していない母親の就労意欲



図表 24 1年以内に就労したい母親の希望する就労形態

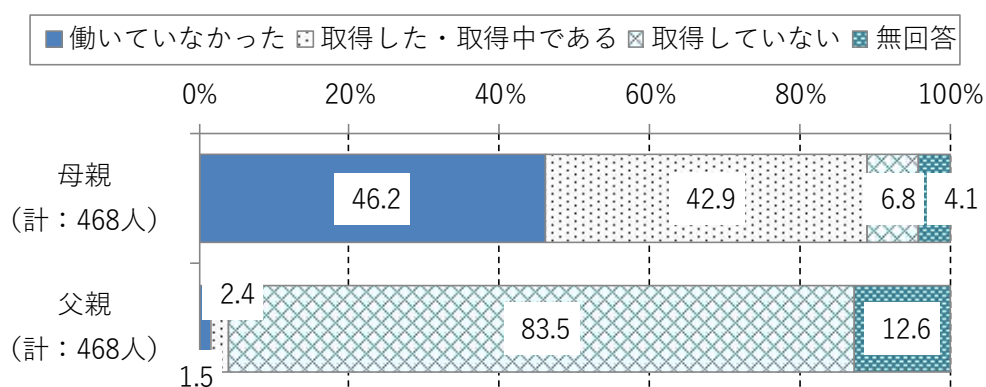


### 3. 育児休業など職場の両立支援制度

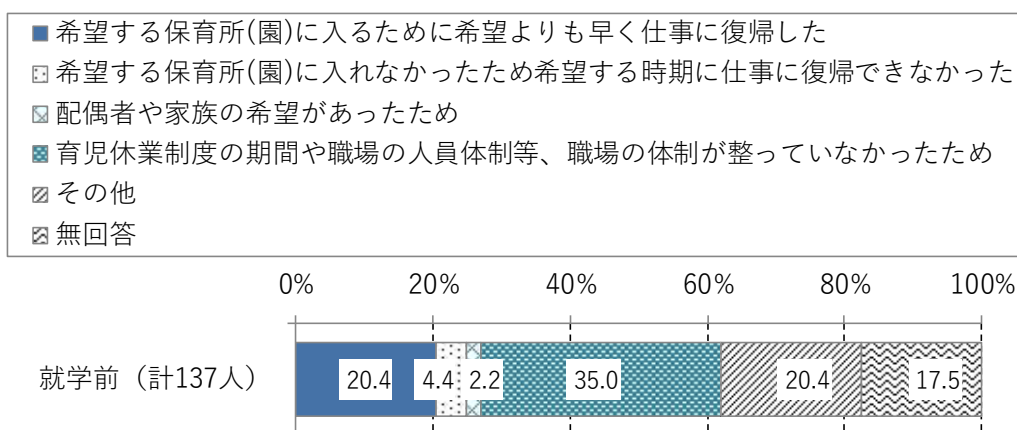
育児休業制度を、就学前児童の母親は42.9%、父親は2.4%取得しています。

また、育児休業を希望する期間、取得できなかった理由をたずねると「育児休業制度の期間や職場の人員体制等、職場の体制が整っていなかったため」と回答した人が35.0%と最も高くなっています。その他の回答が28件あり、内11件が金銭面、経済面を理由とするものでした。

図表 25 育児休業利用率（就学前児童）



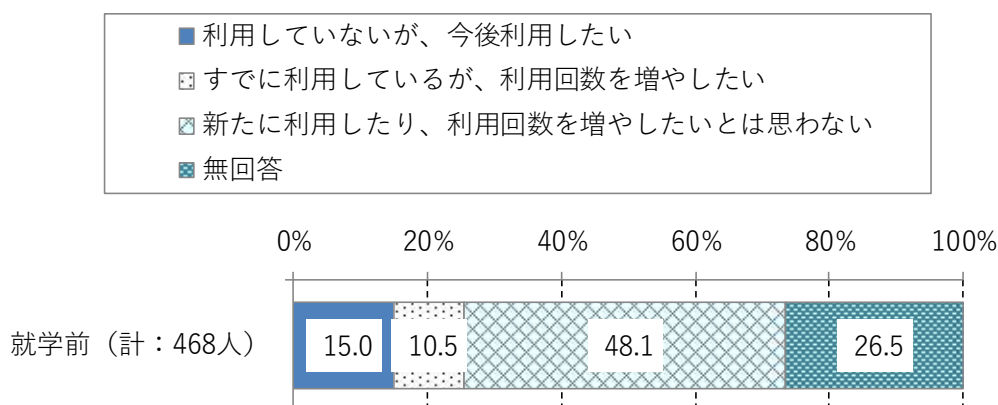
図表 26 育児休業を希望期間取得出来なかった理由（就学前児童）



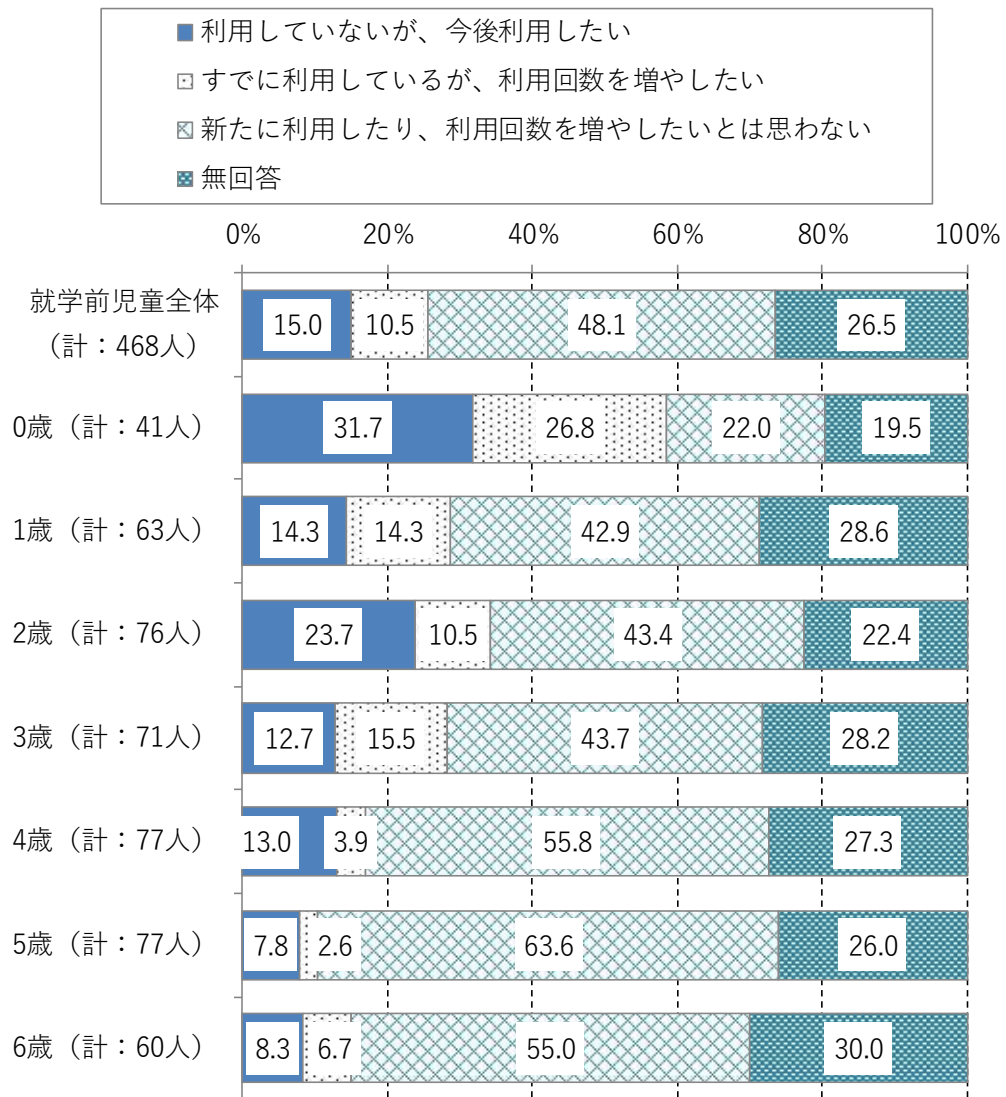
## 4. 地域子育て支援拠点事業及び子育て支援サービスの利用状況

地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したいと回答した人の割合は 15.0%、今後利用日数を増やしたいと回答した人の割合は 10.5%となっており、合わせると就学前児童の保護者の 25.5%が地域子育て支援センターの利用に意欲的であることが分かります。年齢別支援拠点事業の利用意向を見てみると、0歳児の保護者の「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」と回答した人の割合をあわせると 58.5%にのぼり、他の年齢の保護者に比べて利用意向が高いことがわかります。

図表 27 就学前児童の地域子育て支援拠点事業の利用意向



図表 28 年齢別支援拠点事業の利用意向

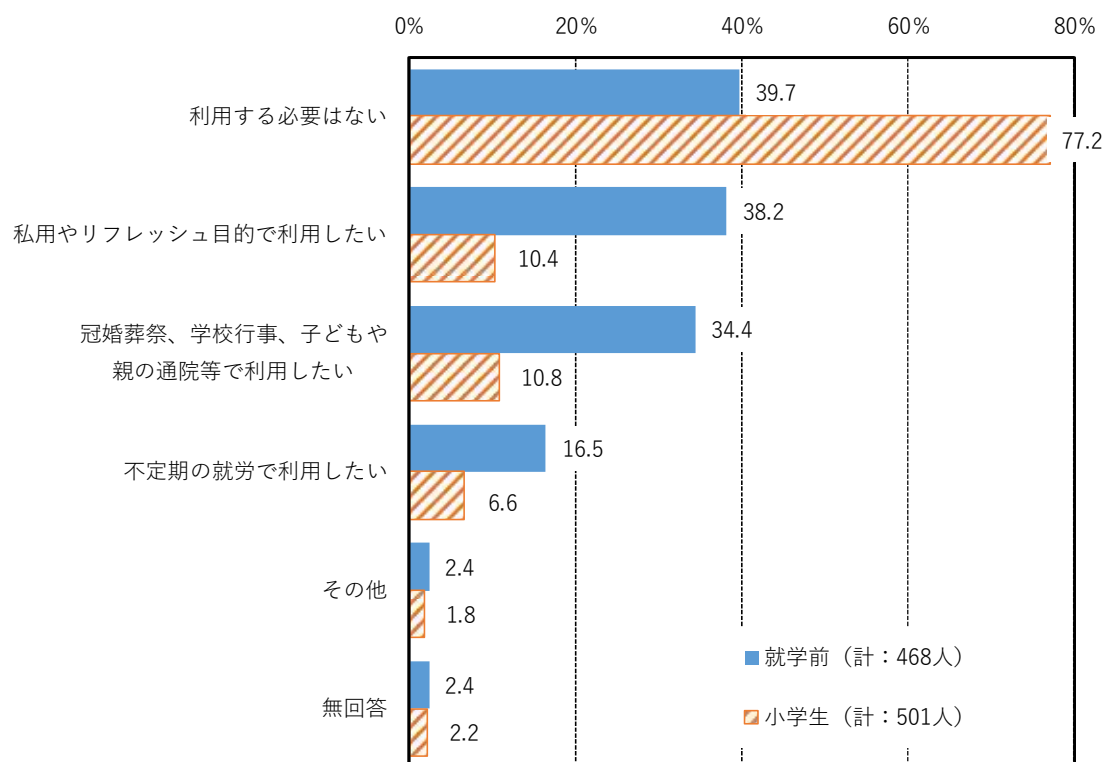




## 5. 不定期の教育・保育施設や一時預かりなどの利用

就学前児童の保護者の利用目的として、「私用（買物，習い事等），リフレッシュ目的」が38.2%となっており、「冠婚葬祭，学校行事，子どもや親の通院など」の34.4%以上に，レスパイト（育児に疲れた保護者が一時的に子どもを預けリフレッシュできるようにすること）のニーズが高いことが分かります。

図表 29 私用，親の通院，不定期の就労等の教育・保育施設の利用目的（複数回答）

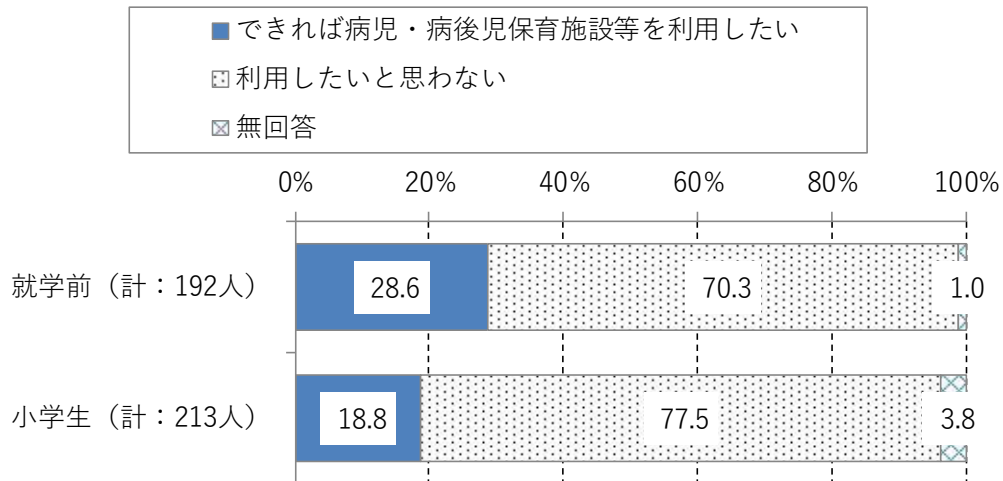


## 6. 病気の際の対応

就学前児童の 83.3%、小学生の 68.5%が、この 1 年間に病気やけがで幼稚園・保育所・学校などを休まなければならなかったと回答しています。

病気やけがで学校等を休まなければならなかったときに「父親が休んだ」、「母親が休んだ」と回答した人に、できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したいと思ったか尋ねたところ、就学前児童の 28.6%、小学生の 18.8%が、できれば利用したいと回答しており、特に就学前児童で利用意向が高くなっています。

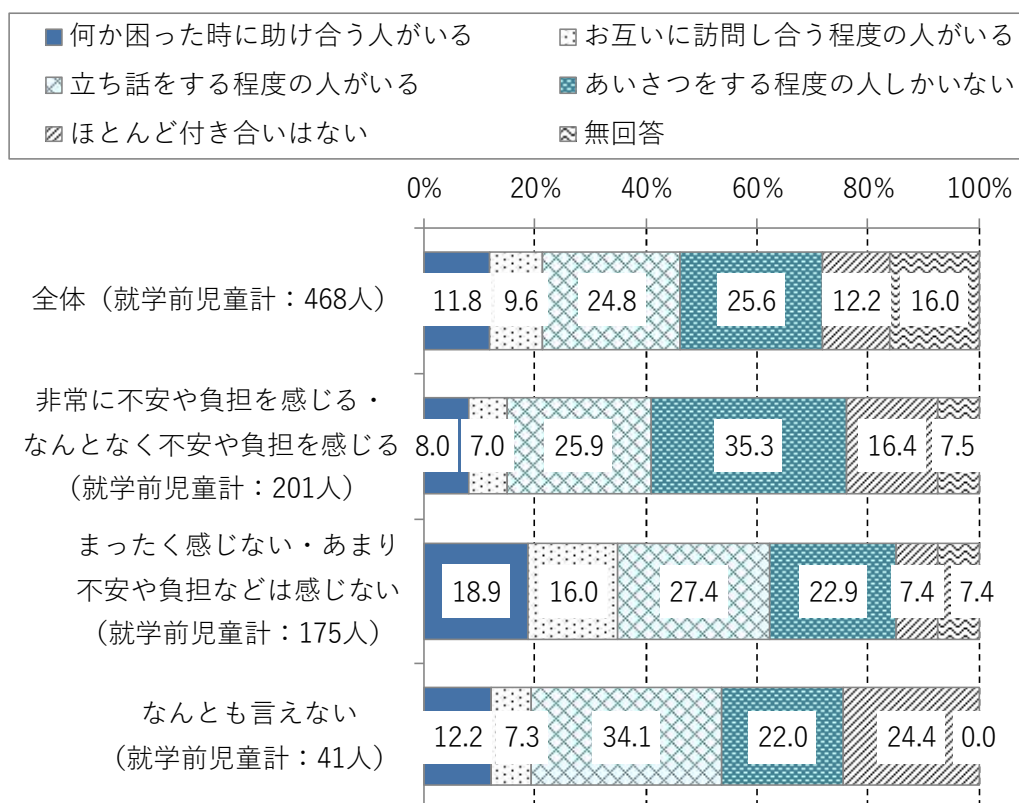
図表 30 病児保育施設利用意向



## 7. 子育てをする親の心理状況

「子育てに関して不安や負担を感じますか」という問と「近所の人とどの程度付き合いがありますか」という問をクロス集計してみると、図表 31 就学前児童の子育て家庭と近所の交流をみてわかるとおり、「非常に不安や負担を感じる・なんとなく不安や負担を感じている」と回答した就学前児童の保護者は「まったく感じない・あまり不安や負担などは感じない」と回答した就学前児童の保護者に比べ、近所の人とのかかわりが少ないことがわかります。近隣の人とかかわる機会が少ない家庭は、子育てに関する不安や負担を感じる傾向が強いことから、子育て家庭が近隣や地域との接点を持つ機会を創出することが、精神的な負担を軽減することにつながるため重要となります。

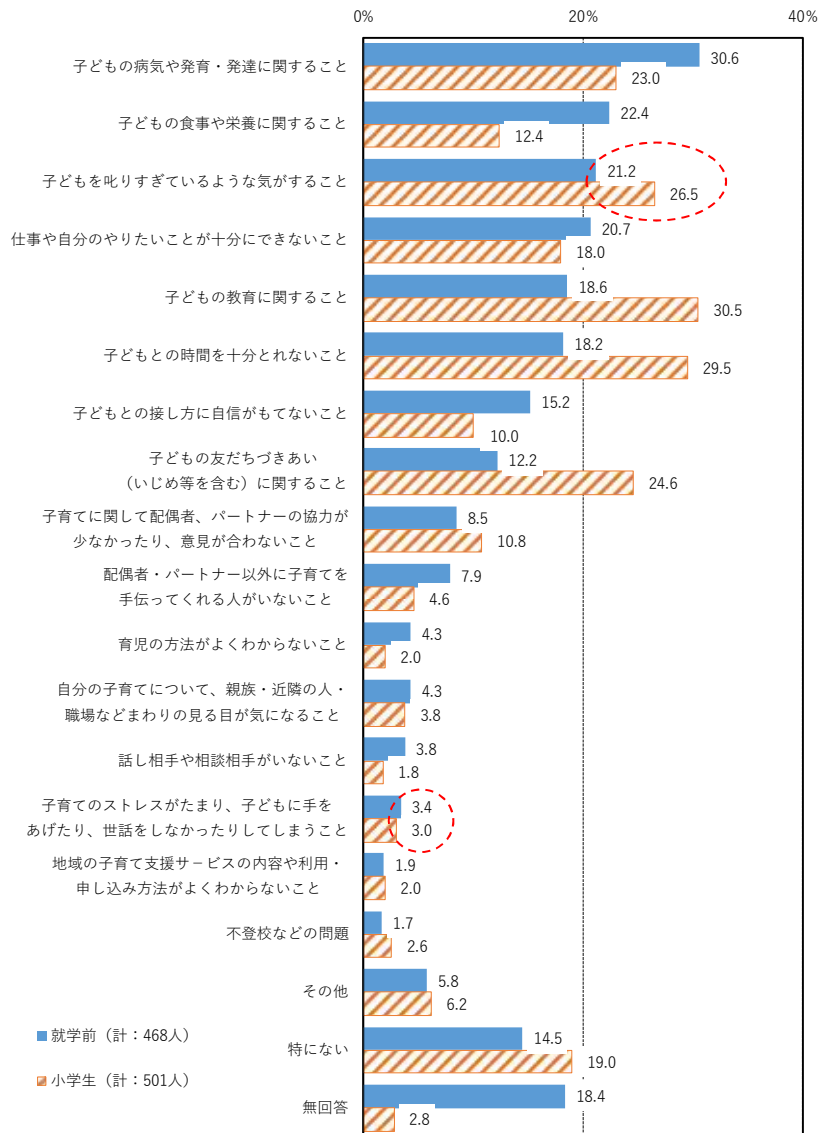
図表 31 就学前児童の子育て家庭と近所の交流



## 8. 親の悩みと児童虐待の傾向

総社市では、就学前児童の保護者の3.4%、小学生の保護者の3.0%が、子育てにおけるストレスから子どもに手をあげるなどの身体的虐待をはじめ、世話をしていないなどの、ネグレクトの傾向も見られています。また、児童虐待には至らずとも、就学前児童の保護者の21.2%、小学生の保護者の26.5%が、子どもを叱りすぎているような気がするかと回答しています。このように、子育て中の保護者は、育児不安を抱える中、子どもに対する接し方に悩み、自信がもてなくなっていることが見てとれます。虐待に至る前に、適切な支援が必要であり、虐待が深刻化する前の早期発見・早期対応が必要だと考えられます。

図表 32 子育てに関して困っていること、悩んでいること（複数回答）



## 9. 自由回答集

### (1) 自由回答欄を設けた背景

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化しており、子育て中の保護者にとって、孤独感や不安感の増大要因は多岐に渡っていることが想定されます。

アンケート調査は、子ども・子育て支援事業計画策定に当たり、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みを推計し、具体的な目標設定を行うことを目的として実施した経緯があり、基本的に、調査項目は国から示された調査票案に基づき設計されています。推計に必要な設問に紙面の多くを割いたため、調査票に回答いただく子育て中の保護者の負担感との兼ね合いの中で、保護者がどのようなことに不安を感じているのか、その不安感を少しでも和らげるためには、どのような取組が必要であるのかについて、より掘り下げのための設問が相対的に不足していることも否めません。

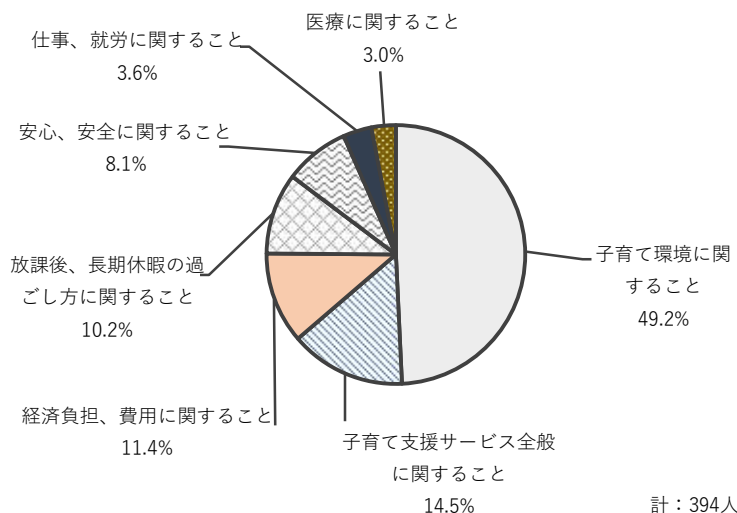
そこで、調査票の最終頁に自由記述欄を設け、子育て中の保護者が日常生活の中で感じる不安や生活上の諸課題、地域に向けた問題提起等を含め自由に記述していただくことで、これまで十分に把握しきれなかった諸課題や少数意見を見出すことを試みるとともに、課題が生まれる構造、背景を整理し、同時に、課題の解消に向けた取組の方向を探ることとしました。

### (2) 自由回答の概要

#### ① 記述内容の課題分野

自由回答で寄せられた文章を分析し、課題分野毎の内訳を集計しました。

自由回答文中における課題分野



## ②代表的な意見の抜粋

### 子育て環境に関すること

- ✧ 以前、待機児童数を総社市のホームページ上で確認したところ、「0」と表示されていたので申請をしたところ、断られました。ある規定で待機児童にカウントされないという説明を受けましたが、保護者にはわかりにくいので全ての申し込み者数を表示した方が良いと思います。
- ✧ 保育園、幼稚園、小学校と、お年寄りの方とのふれ合いが嬉しい。新しい家がどんどん建っているので、地域を皆で分かりあうためにも色々な関わりからお互いの支援へと進んで行けばいいなと思っています。
- ✧ 現在、第三子が小学生で毎日楽しく子育てしていますが、第一子の子育ては本当に悩んで沢山の人に助けて頂きました。発達障がいということにも自分自身が受け入れるまで時間がかかり、遠回りもしましたが今幸せな毎日が送れているのはたくさん声をかけて頂いたり、サポートして頂いたりしたおかげです。
- ✧ 他の地域の人からよく総社は子育てしやすくなっているねと言われるので嬉しいし、助かります。子どもの数も一世帯当たりで見ても多いので子育てしやすい所なのだと感じます。
- ✧ 子どもが小さい頃は広場など出向いて子どもを遊ばせていましたが、小学生になると室内の遊ぶ場が倉敷まで行かないと無いのが不便です。夏など特に公園だけでは暑いので児童館などが子どもの歩いて行ける場所にあると遊びやすいと感じます。

### 子育て支援サービス全般に関すること

- ✧ 転入の時に幼稚園のなかよし広場の案内や親子クラブの内容などをもっと少し詳しく教えてほしかったです。
- ✧ 産後の家庭訪問がありましたが、産後1回だけではなく、定期的にもっと来て頂きたいです。
- ✧ 病児保育施設が少なすぎます。各小学校単位で位置づけてあっても良いと感じます。働く母親が増えているのでそう感じます。あいあいのような素晴らしい制度もあまり知られていないように思うし。あいあいの場所も市内1ヶ所ではなく3ヶ所位に増やしても良いのではないのでしょうか。
- ✧ 高学年になると勉強も難しくなってきます。放課後に地域のボランティアさん等が勉強を教えてくれるような学習サポートがあるとうれしいです。夏休みは週1日でも公民館、学校などでできると有難いです。

### 経済負担、費用に関すること

- ◇ 医療費が無料なのは非常に助かっています。ちょっとした不調でも病院で診てもらえることができ、また子育ての相談の場としても活用出来ています。
- ◇ 放課後児童クラブの利用料金が高く、子どもを何人も預けてパート、アルバイトを続けるのは困難です。学童も助成してもらいたいです。
- ◇ つどいの広場で不定期に不用品交換会があります。お金がかかるけどすぐに必要な時期が終わってしまうベビー、未就学期の服やおもちゃや日用品を交換しあえるのは有難いし、エコでもあるし、もっと広がればいいなと思うイベントだと思います。

### 放課後、長期休暇の過ごし方に関すること

- ◇ 放課後児童クラブの利用学年が3年生までなのは少し早いと思います。
- ◇ 総社小学校の学童は週1日休まないといけないと聞きました。これから下の子を預けたいと考えていますが、週1日は仕事を早く切り上げて帰らないといけなかなと思うと毎日通えるようにしてほしい。
- ◇ 普段は子どもが学校から帰るまでには私も家にいるような仕事を選んでいるため困りませんが、長期の休みはとても困っています。地域の学童にたずねても長期だけの預かりはしていないと言われます。仕事をする人が増えているのでどうにか改善してもらえないかと思っています。

### 安心、安全に関すること

- ◇ 道幅が狭い歩道が多く、子どもと並んで歩けない所が多いです。また自転車で子どもを乗せて走る場合、やむを得ず歩道に避難したい時も歩道が狭すぎて避難できません。
- ◇ 狭い道も多く、車も多く走っている通学路では見守り隊の方に大変お世話になっており、助かっています。

### 仕事、就労に関すること

- ◇ 子どもが病気になってしまった時、会社に休む連絡をしたり、早退をしたりする事がありますが、職場に嫌な顔をされます。子育て王国ならもう少し、子育てに理解ある会社があれば本当に有難いです。
- ◇ 子どもを理由に仕事を休む場合、会社の理解は得られても顧客の理解が得られにくいと感じます。それは世間の考え方が変わっていないからだと思います。

### 医療に関すること

- ◇ 総社に夜間みてもらえる小児科がほしい。救急病院があっても「子どもは診られません」と言われることがあります。1つぐらい小児科24時間対応してくれる病院があると助かります。
- ◇ 子どもの医療費の公費負担をして下さって有難いと思います。ただ、子どもの健康管理をするのは親の責任であると思いますので、薬代や虫歯の治療費などは無料ではなくても良いのではないかと思います。貴重な税金なので使い方をよく吟味するべきだと思います。総社市には幸い産婦人科が数か所あり、何かあればすぐ受診できるので本当に有難いと思います。こどもが産まれてからのサポートももちろん大切ですがそれまでのサポート、ケアも子育て支援の重要な部分だと思います。

